

子どもの虐待の背景には家族間の葛藤
や子育てにおける親子の孤立に加え、社
会的要因などがあると言われています。

子どもの虐待は、どここの家庭にも起こり
得ます。

虐待をしている親自身が悩み、やめたい
と苦しんでいる場合もあるのです。

虐待をする親と子どもには、周囲のあた
たかい支えと適切な援助が必要です。



お電話ください

子どもの虐待防止センター相談電話

03-5300-2990

月～金 ▶ 10:00～17:00

土 ▶ 10:00～15:00

日・祝 ▶ 休み

社会福祉法人
子どもの虐待防止センター

〒156-0043 東京都世田谷区松原1-38-19 東建ビル202
電話 03-5300-2451 FAX 03-5300-2452

ホームページ <http://www.ccap.or.jp>

社会福祉法人

子どもの虐待
防止センター

CCAP : Center for Child Abuse Prevention



子どもの虐待防止センターは、
子どもの虐待を早期に発見し、虐待防止を援助するために
設立された民間の団体です。
虐待から子どもを守り、親への支援を行っています。
1991年5月に設立、
1997年3月に社会福祉法人の認可を受けました。

虐待は なぜ起きる のでしょうか

組織

理事長

坂井 聖二 (小児科医)

理事

鮎京 真知子 (弁護士)

河津 英彦 (玉川大学教育学部教授)

田中 聖悟 (CCAP事務局)

西澤 哲 (山梨県立大学人間福祉学部教授)

平湯 真人 (弁護士)

広岡 智子 (CCAP相談員)

松本 成子 (財団法人 日本キリスト教婦人矯風会常任理事)

監事

磯谷 文明 (弁護士)

田中 治樹 (公認会計士)

顧問

上出 弘之 (精神科医・元東京都児童相談センター所長)

こんな活動をしています

電話相談

研修を受けた相談員が虐待にかかわる相談のほか、子育ての悩みもお受けします。また、学校・保育園・病院・保健所などで虐待されている子どもにかかわっている方や、心配な家族を見聞きた方からの相談にも応じます。相談は匿名で秘密を守ります。医療・福祉・保健・司法の専門家が相談員をサポートしています。

グループケア

- MCG (母と子の関係を考える会)
育児不安や虐待などの悩みを抱えたお母さん同士が出会う治療的グループです。グループでは一人ひとりが自分の体験を語り合い、心の痛みをみつめなおす時間を持ちます。
- オープンルーム:お母さんが子どもと一緒に自由に参加し、ゆっくり過ごす場です。
- ほっとホットサロン:虐待に関わる援助職のためのグループです。

里親・養親支援

- FCG (里親・養親のケアグループ)
里親・養親特有の悩みを仲間同士で語り合う場です。グループのほか電話相談や個別相談なども行っています。
※各地の里親会や養子縁組家庭の会に出張しての、出前グループも行っています。

子どもケア

虐待を受けた子どもに対する援助・治療プログラムの実践を重ねながら、現在の養育者(ケアワーカーや里親)と子どもの愛着を深めるためのプログラムの開発とセラピストの育成を行っています。

教育・広報

- ホームページによる情報発信
- 子どもの虐待防止セミナー・シンポジウムの開催、講演会への講師派遣
- ニュースレター・テキストブックの発行

その他

- 関連機関とのネットワーク
- 子どもの虐待防止のための電話相談員の育成・研修
- 他機関の虐待対策事業への協力
- 虐待に関する調査・研究

わたしたちの活動を 応援してください

CCAPの活動は、皆様の会費とご寄付に
大きく支えられています

賛助会員の募集

活動を財政的に支援していただくために、広く賛助会員を募っています。

賛助会は年度制(4月～翌年3月)です。会員の方には、会報「CAPニュース」を年4回お送りするほか、主催セミナーに会員割引でご参加いただけます。

- 会員申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵便でお送り下さい。申込と同時に、会費をお振り込み下さい。
ご入金を確認次第「CAPニュース」をお送りします。

年会費 一口 5,000円

ご寄付のお願い

ご寄付は多少に関わらず活動への大きなサポートになります。当法人への寄付は、法人・個人共に税法上の寄付金控除の対象となります。必要な方には領収書をお送りいたしますので添付申込書を事務局宛お送り下さい。

郵便口座 00160-4-362897

加入者名 社会福祉法人子どもの虐待防止センター

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 上北沢支店

普通預金 0493048

口座名 社会福祉法人子どもの虐待防止センター
理事坂井聖二



社会福祉法人子どもの虐待防止センター <http://www.ccap.or.jp>

平成19年度事業報告に寄せて

社会福祉法人子どもの虐待防止センター

理事 平湯 真人

私たちの活動に加わり、また支援してくださっている皆様に、平成19年度の事業報告をお送りします。

法人として今何をなすべきか、社会のニーズに応えるにはどうしたらよいか、一生懸命考え合いながら、少しずつ事業内容も増やしてきました。

この場をお借りして、私が最近考えていることの一端を書かせていただきます。

この頃特に思うのは、生活しにくい世の中になってきた、ということです。大勢の若者が給料を値切られ、時間外労働を強いられ、大勢の老人が実質年金を減らされ、病気治療も受けにくく、みんなが物価高騰の直撃を受けています。子育てはますます難しくなり、親は子どもと向き合う余裕を失い、親のストレスを子どもにぶつけています。「冷蔵庫の父親のアイスクリームを子どもが食べたので殴りつけて死なせた」という背景を想像すると背筋が寒くなります。

最近貧困問題がまともに議論されるようになりました。虐待との関連についても「子どもの貧困(明石書店)」の中の「児童相談所からみる子どもの虐待と貧困」(川松亮)も実証的に論じています。貧困家庭が即虐待家庭になる、というわけではあ

りませんが、家族関係のリスク要因の最大のものが貧困であり、病気や障害(特に精神障害)、低学歴などの原因ともなり結果ともなって気持の余裕を失わせ、この状態が蓄積されて暴力やネグレクトを生んでいます。今後ネグレクトケースの増加が予測されていますが、このような家庭に対する支援は金銭給付だけでは足りず、総合的な生活支援にならざるを得ないでしょう。

他方で性虐待などは貧困以外の要因が大きいと思われれます。心理的虐待の中にも、例えば高学歴の親が子どもに受験を強いるケースも少なからずあります。これらはもっぱら家族病理が背景にあって、被害を受けた子どものケアについては格別の配慮や工夫が要ります。親によらない(教師など第三者による)性的被害のケースと共通の対応を考える必要もあるでしょう。

以上を簡単にまとめれば、家庭内の虐待としては、貧困性虐待と非貧困性虐待と大きく2分類して考えるのがよいのではないかと、ということです(私の個人的意見です)。困難なケースが増えている現在、みんなで智慧を出し、背景についての分析、支援方法についての検討を一層深めていきたいと思います。

平成19年度 事業報告

社会福祉法人の運営事業

1. 理事会・評議員会の開催

平成19年度は理事会5回、評議員会を2回開催した。日程と主な議題は次の通りである。

	開催日	議 題
第1回 理事会 第1回 評議員会	平成19年 5月27日(日)	・平成18年度 事業報告 ・平成18年度 決算報告 ・平成18年度 監査報告と承認
*平成18年度事業及び決算について、監事による監査を実施し、監査報告は承認された。		
第2回 理事会	平成19年 7月21日(土)	・新規事業の立ち上げ ・人事計画について
第3回 理事会	平成19年 10月13日(土)	・ドクターアドバイザーシステムの実施について ・東京都による法人監査について ・人事計画について
第4回 理事会	平成20年 1月12日(土)	・平成19年度 補正予算 ・平成20年度 事業計画 ・平成20年度 予算 ・規程改定 ほか
第5回 理事会 第2回 評議員会	平成20年 3月22日(土)	・平成19年度 補正予算 ・平成20年度 事業計画 ・平成20年度 予算 ほか

2. 賛助会員 平成19年度 賛助会員は742名（継続会員642名、新入会員100名）であった。

3. 寄 付 寄付は法人・個人合わせて延べ218件82名の方から頂き、その合計は22,795,717円に上った。

※ CCAPの活動費用は、みなさまからの賛助会費と寄付金によって大きく支えられています。

ここに感謝し、心より御礼申し上げます。

4. 助成金

助 成 機 関 名	助 成 額
財団法人 東京都高齢者研究・福祉振興財団	3,907,000円
社会福祉法人 東京都共同募金会	300,000円
社会福祉法人 中央共同募金会	1,200,000円

5. 印刷物の発行と頒布 以下の印刷物を新規に発行並びに増刷した。

(1) ニュースレターの発行

会報「CAPニュース」は、年4回（第62号～第65号）と号外の計5紙を発行した。

(2) テキスト・パンフレットの発行

パンフレットとインフォメーションカードの作成と、次の新刊2誌を発行した。

CCAPボックス No.9 「児童福祉施設における虐待を受けた子どもへの対応」

CCAPボックス No.10 「地域におけるネットワーク ～個人情報保護と連携のはざままで～」

6. その他行政機関や自治体との関わり

(1) 厚生労働省

- ① 児童福祉事業功労団体として、厚生労働大臣より児童福祉法制定60周年記念事業の特別表彰を受けた。
- ② 10月22日に厚生労働省主催で行われた児童虐待防止対策協議会に出席した。

(2) 文部科学省

- ① 文部科学省主催の教育相談等に関する調査研究協力者会議に調査研究協力者として参加した。
- ② CCAP主催 第4回学校関係者対象セミナー「子どもの虐待における学校の役割」に同省の後援を受けた。

(3) 東京都児童相談センター

協定書に基づく虐待防止事業の実施に加え、CCAP主催 保育者対象の子どもの虐待防止セミナー「気になる子どもと家族にどうかかわるか」に同センターの後援を受けた。

(4) 東京都委託事業「ドクターアドバイザーシステム事業」の実施

東京都福祉保健局からの委託を受け、「ドクターアドバイザーシステム事業」を実施した。相談事業に加え、都内一次医療機関医師を対象に板橋区、文京区、足立区、江戸川区、三鷹市にて研修を実施した。

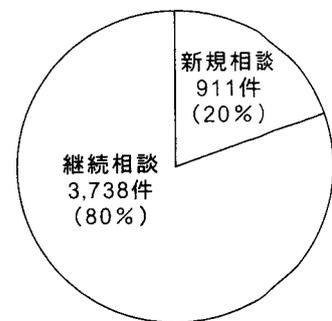
子どもの虐待防止センターの事業

1. 電話相談事業

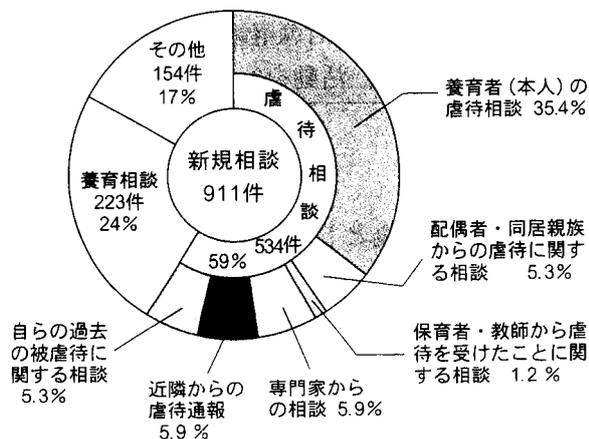
(1) 電話相談

平成19年度は、日曜、祝日及び夏期、冬期休暇を除く平日の10:00~17:00、土曜の10:00~15:00に、電話4台にて受信した。相談日数は283日であった。総相談件数は4,649件であった。相談の内訳はグラフの通りである。

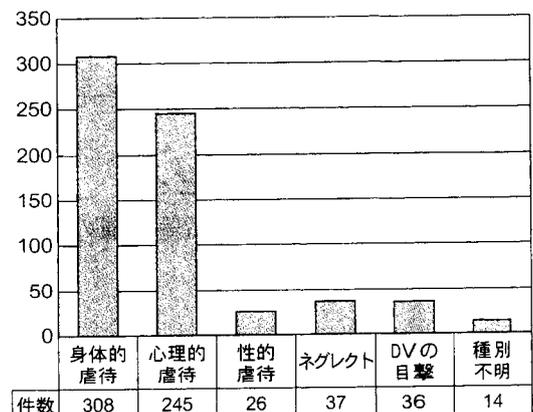
平成19年度電話相談全4,649件の内訳



新規相談電話911件の内訳

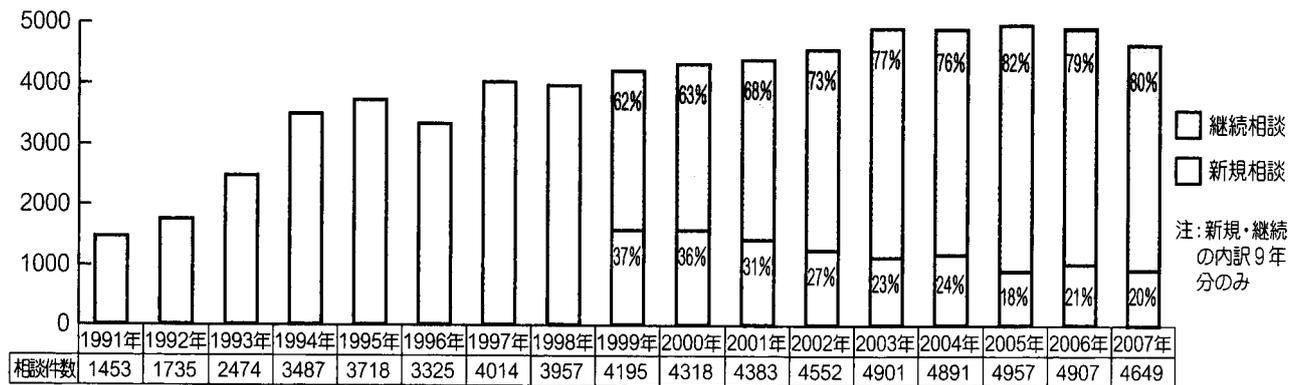


虐待の種別 (重複回答あり)



4 CAPニュース号外

設立時からの電話相談件数の推移



(2) 相談員研修

- ① ケースレビューを11回実施。延べ264名が参加。電話相談ケースの連絡と検討を行った。
- ② 相談員研修を6回実施。延べ109名が参加して、次の講師による研修を行った。(50音順、敬称略)
 畔上 裕子 (城西国際大学) 西澤 哲 (山梨県立大学) 村瀬嘉代子 (大正大学)

(3) ボランティア相談員養成講座

レクチャーとロールプレイを17名の参加者を対象に7回行った。そのうち8名が新相談員となった。

2. グループケア事業

(1) CCAP主催グループの開催及び相談活動

事業名		開催時間		実施回数	延べ参加者
① MCG (母と子の関係を考える会)	金曜グループ	毎週金曜	14:00~15:30	47回	214名
	火曜グループ	毎週火曜	10:30~12:00	50回	167名
	土曜グループ	第4土曜	14:00~15:30	12回	2名
	施設MCG	第3火曜	14:00~15:30	11回	30名
② ほっとホットサロン (援助者のためのグループ)		奇数月第3金曜	19:00~20:30	7回	42名
③ オープンルーム (母親と子どものつどいの広場)		毎月第2土曜	13:30~16:00	11回	25名
④ 電話相談		毎週水曜 10:00~17:00にMCG専用電話で、グループ参加者と参加希望者への相談活動を行った。			

(2) グループスタッフのレビュー

CCAP主催及び外部保健所等主催のグループ事業担当者の振り返りの場として11回行い、延べ69名が参加した。

(3) 親子再構築支援事業の実施

親子分離後の再構築支援を4ケース行った。(再統合後のケアも含む)

3. 里親・養親支援事業

(1) CCAP主催グループの開催及び相談活動

事業名	開催時間	実施回数	延べ参加者
① FCG（里親ケアグループ）	毎週木曜 10:30～12:00	47回	56名
② 個別相談	5名 19回		
③ 電話相談	毎週木曜 13:00～17:00 にFCG専用電話で、住居地が遠方などの理由でグループに参加しにくい里親、養親の相談を行った。		

(2) グループスタッフの研修

FCGスタッフの資質向上のため、研修会を2回行い、延べ14名が参加した。

(3) 出前FCG*の実施

NPO法人東京養育家庭の会 八王子・多摩の各支部、千葉市里親会、八王子・個人宅からの依頼を受けて9回行い、延べ114名の参加があった。

*現地に出かけて行う里親ケアグループを「FCGを現地へ届ける」という意味で『出前FCG』と呼んでいる

(4) 養育家庭の会及び支援関係機関との交流

- ① NPO法人東京養育家庭の会総会、東京都児童相談所里親担当会議に出席した。
- ② 里親の会や関係団体の集会、研修会に参加した。

(5) 里親・養親研修への協力

東京都養育家庭の会里親研修、仙台市里親研修に講師を派遣した。

4. 子どもケア事業

(1) 愛着プログラムの実施

「愛着関係・愛着障害の視点から虐待を受けた子どもに対する援助・治療プログラム」の事業を当法人理事 西澤 哲を中心に実施。虐待などの理由で児童養護施設や里親養育を受けている子どもを対象に、現在の養育者との愛着関係の改善・強化を目的とした心理療法を前期4ケース、後期4ケースの計8ケース（児童養護施設7ケース、里親1ケース）実施した。

また同プログラムの実施を通じ、プログラムの開発と実施セラピストの育成を行った。

(2) 専門相談の実施

子どもの心理相談を10ケース、虐待対応に関わる法律的な問題への相談を6回実施した。

5. 教育・広報事業

(1) 児童虐待防止に関する講演会への講師派遣

他機関、団体からの依頼に応じ、子どもの虐待に関わる関係職種（児童相談所、保健所、市区町村、児童館、社会福祉協議会、民間虐待防止団体、教育委員会、子ども家庭支援センター、小中学校、民生・児童委員など）、PTA、子育て中の母親などを対象とした講演会に113回、講師を派遣した。

(2) セミナーの開催 (講師・シンポジスト名 50音順、敬称略)

- ① 第18回子どもの虐待防止セミナー「愛着に障害を受けた子どもの治療について学ぶ」
 - 日時：平成19年6月28日(木)、29日(金)
 - 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター ○参加者：169名
 - 講師：西澤 哲 (山梨県立大学)
- ② 第19回子どもの虐待防止セミナー「愛着に障害を受けた子どもの治療について学ぶ」
 - 日時：平成19年11月14日(水)、15日(木) ※好評のための第二弾開催
 - 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター ○参加者：127名
 - 講師：西澤 哲 (山梨県立大学)
- ③ 第4回学校関係者対象セミナー「子どもの虐待における学校の役割」
 - 日時：平成19年7月30日(月) ○後援：文部科学省、東京都教育委員会
 - 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター ○参加者：79名
 - 講師：グループ討議助言者：
片倉 昭子 (鎌倉女子大学) 杉山登志朗 (あいち小児保健医療総合センター)
河津 英彦 (玉川大学) 松田 博雄 (淑徳大学)
- ④ 第20回子どもの虐待防止セミナー「気になる子どもと家族にどうかかわるか」
 - 日時：平成20年1月20日(日) ○後援：東京都児童相談センター
 - 会場：東京都児童会館 ○参加者：61名
 - 講師：グループ討議助言者：
河津 英彦 (玉川大学) 片倉 昭子 (鎌倉大学)
藤井 和子 (まめの木クリニック) 宮島 清 (日本社会事業大学)

(3) 説明会の開催

CCAPの活動を紹介する説明会を11回実施し、学生を中心に延べ20名が参加した。

(4) 児童養護研究会の開催

4回の事例検討と、講義形式の拡大児童養護研究会を1回実施した。

① 事例検討会

西澤哲をスーパーバイザーに迎え、児童養護施設での被虐待児対応について検討し、児童養護施設職員とCCAP相談員延べ107名が参加した。

② 拡大児童養護研究会

児童養護施設職員の他、児童相談所、子ども家庭支援センター、保健所等の職員を対象に次の通り実施した。

- 日時：平成20年3月17日(月)
- 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター ○参加者：101名
- 講師・西澤 哲 (山梨県立大学)

(5) MCG講座の開催

- 日時：平成20年2月10日(日)、11日(月)
- 会場：(社福)子どもの虐待防止センター ○参加者：22名
- 講師：上村 順子 (めだかメンタルクリニック) 大熊 陽子 (杉並区荻窪保健センター)
田中 美穂 (横浜市神奈川福祉保健センター) 原田 浩子 (西新宿保健センター)
広岡 智子 (CCAP)

(6) 他機関・他団体の専門家及び相談員への研修協力

- ① 日本看護協会認定看護師教育専門課程小児救急看護学
- ② 東京都看護協会
- ③ 東邦大学大学院医学研究科
- ④ 東邦大学医学部看護学科
- ⑤ NPO法人あい・ぽーとステーション(港区)主催 あい・ぽーと子育て支援者養成講座
- ⑥ 横須賀市グループ従事者実務研修
- ⑦ ながの子どもを虐待から守る会MCGファシリテーター研修、電話相談員フォローアップ研修

(7) その他 広報活動

- ① 取材
マスコミ各社からの取材は全21件。媒体の内訳は、新聞8件、雑誌1件、テレビ7件、ラジオ2件、その他3件であった。
- ② 見学・研修などの来客
東京都をはじめ各県の行政、児童相談所、社会福祉協議会、子ども未来財団、日本看護協会、私立・公立中学校・大学など全国27ヶ所から見学者・来訪者があった。
- ③ 当法人活動について、ホームページによる情報発信を行った。

6. その他の事業

(1) 日本子ども虐待防止学会との連携

平成19年12月14日～15日に三重県総合文化センター及びアストプラザ、ホテルグリーンパーク津にて開かれた「日本子ども虐待防止学会第13回学術集会・三重大会」に法人としてパネル展示を行った。

(2) 日本子どもの虐待防止民間ネットワークとの連携

- ① 虐待防止推進月間キャンペーン「全国一斉子育て・虐待防止ホットライン」
児童虐待防止推進月間中の11月5日～19日まで、全国25の民間虐待防止団体が協力して子どもの虐待防止のためのキャンペーン電話相談を実施した。同事業には、厚生労働省、日本子ども虐待防止学会とともに各自治体などの後援を受けた。
CCAPでは同期間中、夜間を含め電話相談を実施した。相談件数は57件であった。

【全国の参加団体（全25団体）】

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ・福島虐待問題研究会 | ・キャプネット・みやぎ |
| ・埼玉子どもを虐待から守る会 | ・いばらき子どもの虐待防止ネットワーク「あい」 |
| ・子どもの虐待防止センター | ・子どもの虐待防止市民ネットワーク多摩 |
| ・ながの子どもを虐待から守る会 | ・子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク |
| ・子どもの虐待防止ネットワーク石川 | ・子どもの虐待防止ネット・にいがた |
| ・こども虐待防止センター・しずおか | ・子どもの虐待防止ネットワーク・あいち |
| ・日本家族再生センター | ・MCサポートセンター「みっくみえ」 |
| ・児童虐待防止協会 | ・子どもの虐待防止ネットワーク・しが |
| ・三光事業団 | ・阪神子どもの虐待防止ネットワーク「ほっと」 |
| ・子ども虐待ホットライン広島 | ・子どもの虐待防止ネットワーク鳥取 |
| ・ふくおか子どもの虐待防止センター | ・子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ |

8 CAPニュース号外

- ・子どもの虐待防止みやざきの会
- ・豊川共生ネットみらい
- ・子どもの村を設立する会
- ② 日本子どもの虐待防止民間ネットワーク大会への参加
平成19年6月2日～3日に愛知県KKRホテル名古屋にて開かれた「第6回日本子どもの虐待防止民間ネットワーク大会」に法人として参加した。
- ③ 日本子どもの虐待防止民間ネットワーク主催の交流会への参加
平成19年12月14日に日本子ども虐待防止学会「第13回学術集会・三重大会」の自主企画、日本子どもの虐待防止民間ネットワーク主催の交流会に参加協力した。

(3) 児童虐待防止全国ネットワークとの連携

- ① 同団体が呼びかける子ども虐待防止のオレンジリボン運動について、シンボルマークであるリボンやバッジの頒布による広報活動に協力した。
- ② 同団体主催で平成19年12月16日に行われた鎮魂集会パレードに協力した。

(4) その他の子どもの虐待防止事業への協力

- ① 市区町村の要保護児童対策地域協議会への参加
東京都、杉並区、世田谷区、中央区、中野区、練馬区、多摩市の要保護児童対策地域協議会代表者会議に委員を派遣した。
- ② 東京都社会福祉協議会主催の「地域福祉推進委員会」及び「子ども家庭の地域支援に関わる連絡会」に参加し、東京都の福祉施策への提言に協力した。
- ③ 子どもの虹情報センターの運営委員の委嘱を受け、運営に協力した。
- ④ 国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会に委員を推薦した。
- ⑤ 関連事業への後援・協力
 - 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局主催 子どもの虐待全国フォーラム in くまもと「児童虐待対策の今、そしてこれから」後援
 - 2) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局主催「第61回 児童福祉週間」後援
 - 3) 日本子ども虐待防止学会主催 児童虐待防止推進月間特別講演会「英国に学ぶ児童虐待対応」後援
 - 4) NPO法人チャイルドライン支援センター「2007 子どもの日チャイルドライン全国キャンペーン」後援
 - 5) NPO法人子どもの虐待防止ネット・にいがた主催 児童虐待防止フォーラム「子どもの虐待死からみえる虐待」後援
 - 6) NPO法人子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク主催 第10回子ども虐待防止シンポジウム「困難事例への対応技術の向上を目指す国際シンポジウム」後援

7. 公的機関の虐待防止事業への協力

(1) 母親グループへのファシリテーターの派遣

- ・大田区大田東地域行政センター
- ・大田区大田南地域行政センター
- ・大田区大田西地域行政センター
- ・江東区城東保健相談所
- ・江東区城東南部保健相談所
- ・江東区深川保健相談所
- ・新宿区西新宿保健センター
- ・杉並区上井草保健センター
- ・杉並区和泉保健センター
- ・世田谷区玉川保健福祉センター

- ・世田谷区烏山保健福祉センター
- ・港区みなと保健所
- ・東京都南多摩保健所
- ・横浜市神奈川区福祉保健センター
- ・目黒区碑文谷保健センター
- ・小平市健康センター
- ・台東区子ども家庭支援センター
- ・横浜市青葉区福祉保健センター

(2) 母親グループへのスーパーバイザーの派遣

- ・板橋区赤塚健康福祉センター
- ・板橋区上板橋健康福祉センター
- ・板橋区高島平健康福祉センター
- ・神奈川県相模原保健所
- ・長野県松本市保健所
- ・石川県健康福祉部健康推進課
- ・板橋区板橋健康福祉センター
- ・板橋区志村健康福祉センター
- ・清瀬市健康センター
- ・神奈川県横須賀市子育て支援課
- ・長野県塩尻市役所
- ・小平市健康センター

(3) その他

- ① 児童相談所の再統合支援事業への協力（グループへのファシリテーター派遣、母親面接）
 - ・東京都児童相談センター治療指導課
 - ・神奈川県厚木児童相談所
 - ・横浜市全（中央・北部・南部・西部）児童相談所
- ② 虐待専門相談（母親面接、保健師の専門相談、ネットワーク会議）
 - ・立川保健所
- ③ 子育て相談（母親面接）
 - ・江東区城東南部保健相談所
 - ・台東区台東保健所
- ④ 乳児健診事業への協力（母親たちに育児不安に関するメッセージを伝える）
 - ・埼玉県朝霞市保健センター
- ⑤ 虐待ケース事例検討会へのスーパーバイザー派遣
 - ・台東区日本堤子ども家庭支援センター
 - ・小金井市子ども家庭支援センター
 - ・狛江市子ども家庭支援センター
 - ・横浜市保土ヶ谷区福祉保健センター
- ⑥ 個別面接
 - ・石神井保健相談所からの継続ケース

監事の監査

(1) 監事の監査

平成18年度事業及び決算について、監事による監査を実施し、監査報告は平成19年5月27日の理事会、評議員会で承認された。

(2) 東京都福祉保健局による監査

平成19年10月31日に東京都福祉保健局の指導監査において、文書による指摘等なく、事務処理に関する口頭の助言のみで監査を無事終了した。